

2022年10月18日

名古屋大学学術研究・産学官連携推進本部 教授

鬼頭 雅弘

第2回 革新事業創造戦略会議 意見提出

議題1：革新事業創造戦略（案）について

<プラットフォームに多くの提案が出されるために必要な取組について>

- プラットフォームに多くの提案が出されるためには、アイデアを登録した場合に、どのように事業化が図られるかのプロセスを示すなど、ユーザーにとってわかりやすくすべき。
- 技術・研究シーズを登録する大学等の視点に立っても、登録したシーズを誰が見るのかを示し、活用してくれる企業等との出会いがあるかといったイメージが抱けるかが重要。

<WGについて>

- WGの組成にあたっては、プロジェクト推進の覚悟を持ったプレイヤーが必要である。プロジェクトのリーダーとなる者や、プロジェクトの論点等を提示する者など、主要な役割を持つ主体が誰になるかを見極める必要がある。

議題2：提案の募集について

<秘密情報の扱いについて>

- アイデア・シーズを登録する際、公開情報と非公開情報に分けて入力できるが、非公開情報については、NDA（秘密保持契約）を交わすわけではないので、どの程度までプラットフォームに情報を入れるか、しっかりと検討するよう提案者に伝える必要がある。プラットフォームに掲載されている情報で足りなければ、別途NDAを交わすなどして、個別に情報交換すればよい。

- プラットフォームへのアイデア・シーズ登録の時点で、どこまでの情報が公開になるかは、知的財産保護の観点で重要な事項であり、どの段階で、誰にどのような情報が公開されるかを明確にしておく必要がある。
- 資料2-2（提案の記載内容）において、⑧の実施体制等では、協力企業等の構成員を記載する際に、当該構成員がどの程度コミットしているかも記載した方がよいと考える。

議題3：優れた提案の選定について

- プラットフォーム立ち上げ初期はいかに周知できるかが課題となると考える。このため、既にネットワークがある企業に対して、個別に説明を行う、既に受けている提案を回すなど、積極的に提案を受け入れる工夫が必要である。
- ポテンシャルのあるアイデアが記入項目の不備で落ちることが無いよう、申請者に対し、事前に審査項目を見せた方がよいと考える。
- 配点基準についても、革新事業の趣旨に合致した提案を増やす観点から、事前に関示した方がよいと考える。
- 優れた提案の選定の際は、当該分野の有識者の意見も聞くべき。